

ドウダンツツジの苗増殖・育苗技術

農業総合センター山間地帯特産指導所

ドウダンツツジは、近年、国内外の市場からの需要が高く、高収益品目として出荷量を伸ばしています。ドウダンツツジは、山林に自生している株から枝を採取して出荷していますが、その生育は極めて遅く、このままでは資源の枯渇が懸念されています。そこで、中山間地域における枝物経営の安定化を目指し、ドウダンツツジの苗増殖及び育苗技術を開発しました。

ドウダンツツジとは

茨城県の枝物産出額は全国1位（令和5年、51億円）であり、季節毎に多種多様な品目が出荷されています。その中で、ドウダンツツジは夏を代表する枝物であり、無機質な空間でも数本飾れば森のような空間演出ができるため、料亭やホテルの他、一般家庭向けの需要も高まっています。さらに、国内だけでなく、日本を代表する花材として海外輸出量も年々増加しています。



図1 ドウダンツツジの切り枝（A）及び山林に自生する様子（B）

ドウダンツツジの苗増殖・育苗技術

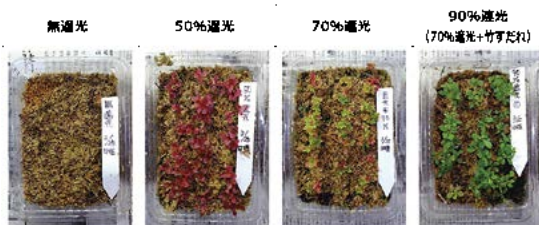


図2 遮光率の違いによる苗の生育状況

注）90%遮光区と比べ、無遮光区では強日射によってほとんどの苗が枯死、50～70%遮光区では葉が紅葉して生育不良

- ・種子もしくは挿し木で増殖が可能です。
- ・は種適期は3月中旬～4月中旬、挿しつけ適期は6月中旬～7月上旬です。
- ・風通しがよく、遮光率90%程度の環境で育苗すると生育が良くなります。
- ・2～3年かけて苗高20cm、主幹径1.5mm以上に生長した苗を生育に適した山林に植栽することで植栽1年後の生存率は8割程度となります。

苗木生産マニュアルについて

ドウダンツツジの育苗技術を取りまとめた「ドウダンツツジ苗木生産マニュアル」を作成しました。本マニュアルは山間地帯特産指導所HP（URL：<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/santoku/index.html>）からご覧いただけます。

本マニュアルによってドウダンツツジの効率的な苗増殖が可能となり、枝物経営の安定化、資源の持続的な活用に寄与することができます。



図3 ドウダンツツジ育苗マニュアル（抜粋）